パックス・トクガワーナに学ぶ　　2022 年 12 月 23 日　　虎長

はじめに：

2022 年 NHKTV 大河ドラマは、僕の住む鎌倉に因む『鎌倉殿の 13 人』だったが、関連して NHK ラジオ第 2 で放送された、『“鎌倉殿の 13 人” から始まる幕府の歴史』が面白かった。新三木会講師としてお招きしたことのある日本中世史家の本郷和人氏が通説を覆す見解(例えば「時宗は英雄でなく凡庸」)を度々披露されたからだ。閑話休題、2023 年 NHKTV 大河ドラマは、僕の生まれ故郷の静岡市に縁の深い徳川家康。どんな人物像が描かれるのだろうか？　本稿では「徳川の平和」の基盤を構築した家康の功績と、それに続く徳川幕府が維持した平和体制から学ぶべきことを瞥見してみたい。

家康の人気：

大河ドラマを当て込んでか、書店の歴史読み物コーナーに家康関連の本が多くなっている。一方、近くの図書館の歴史コーナーには江戸幕府関連の本は多いものの、伝記コーナーでは、信長の本が多く、秀吉、家康のものは少ない。僕が子供の頃は、秀吉は成り上がり者の面白さで、もっと人気があったと思う。最近は、朝鮮出兵に見るようなプーチン的パラノイド性で人気が落ちているようだ。

地味な家康が、より注目されるようになったのは山岡荘八の『徳川家康』あたりからか。明治維新以降、藩閥政権が自己正当化のために、徳川体制に否定的評価を与え、そのような教育を国民に植え付けてきた。「頑迷固陋で強い幕府と虐げられた農民」という偏った見方が一般化し、「ずるい狸おやじ」家康という俗説が広がったのも、そのためだろう。明治維新大好きの国民的作家、司馬遼太郎も、家康個人の力量を認めつつ、江戸時代を高く評価していないように思える。家康が偉いのは、関ヶ原の戦いに勝ったことよりも、盤石な政治経済体制を確立したことで、これは新三木会講師をお願いしたことのある歴史学者、山内昌之氏も指摘されていることだ。

平和主義：

秀吉の朝鮮出兵には天皇も家康も反対で、家康は「封ぜられた関八州の立ち上げで多忙」を理由に朝鮮派兵を断った。これが、秀吉が悪化させた朝鮮、明との関係を家康が修復するのに役だった。外国との戦争よりもまず国内の政治安定を最重点政策とした。戦後日本の非武装平和主義の一因を、秀吉の兵農分離のための「刀狩り」以来の「伝統」に求める論もあるが、朝鮮侵略のための鉄砲増産のための鉄を求めたとの説もある。家康は兵農分離のための刀狩りの伝統を継いだが、更に鉄砲生産をほぼ全面廃棄した。国内で戦争をさせないためだが、無駄遣いをやめるためでもあった。製造技術は一流でも鉄や火薬を輸入に頼らざるを得なかったのだ。

日本が欧州列強の植民地に日本がならなかったのは、「戦国時代に鍛えた」強い兵力と、欧州をしのぐ鉄砲の量だという説もある。昨今の日本の軍備拡張論者の喜びそうな話だ。しかし、国内が 統一され民の生活安全保障の方が、外国との戦争よりも、侵略を受けないために必要なことを家康は分っていた。家光は、東南アジアで欧州の国々が争ったときの日本への助太刀依頼を断っている。外国と戦争をしない徳川家の掟は幕末まで続いた。外国と戦争をしたのは薩長である。ウクライナ情勢や、「台湾有事」想定を煽り、内容不透明な軍事費倍増を勝手に決めてしまう日本の現政権は、国内の民生向上が真の安全保障のためなることを、家康とパックス・トクガワーナに学ぶべきであ

る。米国で使い物にならなくなった飛行機を高価で買わされ、トマホーク 500 発(中国の 2,200 発のミサイルにかなうはずがない)を買う金があるのなら、食料安保、教育、社会福祉に使うべきだ。大艦巨砲主義的に武器ハードウェアを買うよりサイバー攻撃対策を優先すべきだろう。海外派兵の可能性の高まりが一因でもある自衛隊員減少への対策も必要。女性の自衛官希望者が減るような体質も改めなければ。

16 世紀後半に欧州を凌駕する鉄砲生産をした日本は、17 世紀初めには鉄砲を捨てる軍縮を行った。これをテーマに「鉄砲を捨てた日本人―日本史に学ぶ軍縮 」を著した米国人ノエル・ペリンは、朝鮮戦争従軍経験者だが、1984 年発刊の日本語版への序文で、「ワシントンの野心家の機嫌をとるだけのために日本が新式兵器に金をかけることのないよう、貴国に希望を託しています。」と書いたが、昨今は、旧式兵器を高く買わされ、安倍首相（当時）がトランプ大統領（当時）から買う約束をした兵器のローン残額の返済には、倍増防衛費の一部が充てられるのが現実だ。

軍事（武治）から政事（文治）へ：

1. 軍縮と無駄な経費の削減

270 年の徳川の平和の期間を、過剰に美化するつもりはないけれども、270 年の平和の持続には、家綱に始まり綱吉、吉宗が継承した「仁政」を旨とする文治政治の強化、吉宗、松平定信による飢饉対策なども寄与していると思う。復興所得税を防衛費増に充てるとか、電力会社が経済的に見合わないと尻込みする原発の再稼働・新設などを国会無視で進めようとする日本の現政権は、パックス・トクガワーナを見習って欲しい。駿府城天守閣は 1653 年に焼失したが、平和の世に不必要とのことで再建されなかった。江戸城では、秀忠が 2 代目天守閣、3 代目天守閣を再建するも、1657 年焼失後、保科正之の助言で家綱は再建していない。無駄な出費を避けたのだ。綱吉も、将軍御座船である軍艦安宅丸を経費節減のために破却した。

2. 執政者は独走せず公平な判断ができること：

戦国時代・江戸時代研究の第一人者である歴史学者、小和田哲男氏によれば、秀吉には諫言できる補佐役・部下として、先に死んでしまった弟秀長しかおらず、 家康には本多正信のような諫める部下がおり、家康も諫言を聴く耳をもっていた、という。過去 10 年間、日本の政治には「仲良しクラブ」の官邸が国会を無視して独走し、官僚が忖度するという不幸が続いている。先日の新三木会講師でエコノミスト河野龍太郎氏によれば、中立的な機関が財政見通しを出していないのは日本だけとのこと。最近発足した「国力としての防衛力を考える有識者会議」の構成員は、政府寄りの意見を持つ人のみ。更には学術会議メンバーの任命拒否権を法的に首相に与えようとする。自分に近い意見しか聴かないことで公平性が保たれるだろうか？

3. 教育の重要性：

さてパックス・トクガワーナの誇るべき点の一つは世界最高の識字率。戦争がないために、文化が栄え教育が行き渡ったからだ。明治期の文明開化推進は、江戸時代の蓄積に依るというのは、今

や歴史学界の常識である。

現在、少子化に関する話題は、保育園の充実、育児休暇、妊婦補助などであるが、少子化の一番の原因は、第二子以上を生むことを躊躇させる「高い教育費」にあると思う。　　高等教育機関に対する教育支出の家計負担率は、日本は 51%で OECD 平均 21%を大きく上回る。公的教育支出は対 GDP 比で OECD38 カ国中、37 位である。防衛予算を 2 倍にすると、世界で 3 番目の防衛予算額(絶対金額)になるとのこと。それでも軍事力で中国やアメリカに追いつかず無駄である。重要なのは公的教育支出をもっと増やすことだ。2000 年代初頭の国立大学法人化は、日本の学問水準の低迷の最大要因と思う。新三木会の講師にお招きしたことのある宇宙物理学者、佐藤勝彦氏の日経新聞への寄稿によれば、法人化推進者だった当時の有馬東大総長は「あれは失敗だった」と後悔されたそうである。

おわりに：

パックス・トクガワーナを正当に評価するには、まだ論ずべき点が残っている。(1)参勤交代制に象徴される中央集権と藩の自主性を認める地方分権、(2)天皇の体制への囲い込み、(3)鎖国のメリット・ディメリット、 (4)農民・地主・領主と百姓一揆、(5)天草の乱、(6)幕末の外交、など。これらは紙幅制限のため触れなかった。渡辺京二著『逝きし世の面影』には、明治初頭に来日した外国人が見た、日本人の幸せそうな姿が紹介されている。それは江戸時代からの遺産であったが、明治維新で失われてゆくものであった。江戸時代はパックス・トクガワーナと呼ぶにふさわしく、学ぶべきことの豊富な期間だったことを本稿は述べたかった。今後扱いたいテーマは,(1)江戸時代と比較して明治維新は人々を幸せにしたか、(2)明治期　勝海舟の平和主義である。

以上

駿府城に天守閣は現存しないが、家康手植えの蜜柑は今でも実を沢山つけて食べられる

1611 年、スペイン国王フェリペ三世から家康に送られた日本最古の西洋時計(久能山東照宮蔵)

2013 年日英交流 400 年記念として、英国で金貨と銀貨が発行された。左はジェイムズ一世